

メニュー カスタマイズ 「CUI」

オリジナルメニューを追加することで作業効率をUPする。
ツールバーやツールパレット、右クリックショートカットなどを使いやすいように編集する。

1. 新規コマンドの作成

コマンド : CUI ↵

「コマンド一覧」から 「新規作成」

右側のパネル「プロパティ」を編集

名前 : トリム 全て

説明 : 全てを基準線として切取

マクロ : **^C^C_TRIM;;**

ボタンイメージからトリムを選択

「OK」



名前 : 延長 全て

説明 : 全てを基準線として延長

マクロ : **^C^C_EXTEND;;**

ボタンイメージから延長を選択

名前 : オフセット 連続

説明 : 連続してオフセット

マクロ : **OFFSET;#M;**

ボタンイメージからオフセットを選択

名前 : 文字高さ

説明 : 文字高さ設定

マクロ : **TEXTSIZE**

ボタンイメージから Dtext を選択 「編集」

イメージを編集 or 作成して 「名前を付けて保存」

プロパティの小さいイメージから 保存したファイルを選択

メニュー - 編集

マクロ:

フィレット : ***^C^C_FILLET**

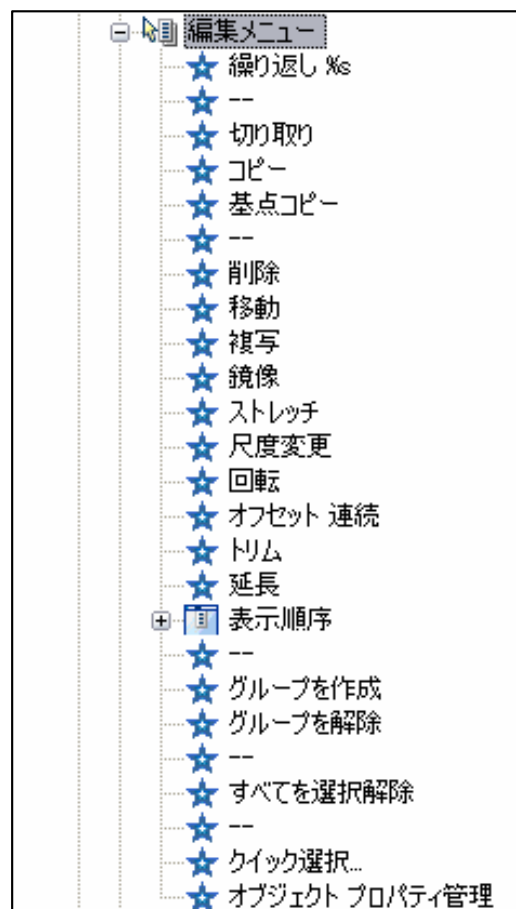
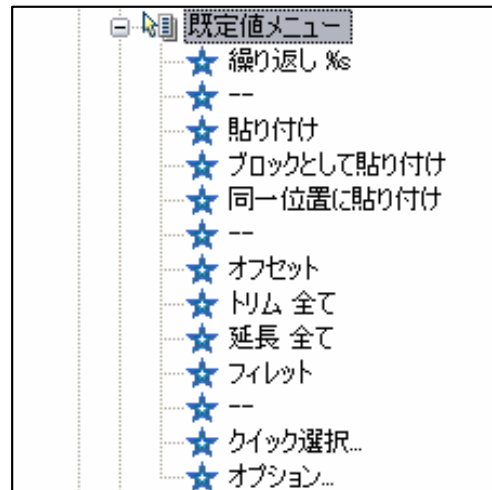
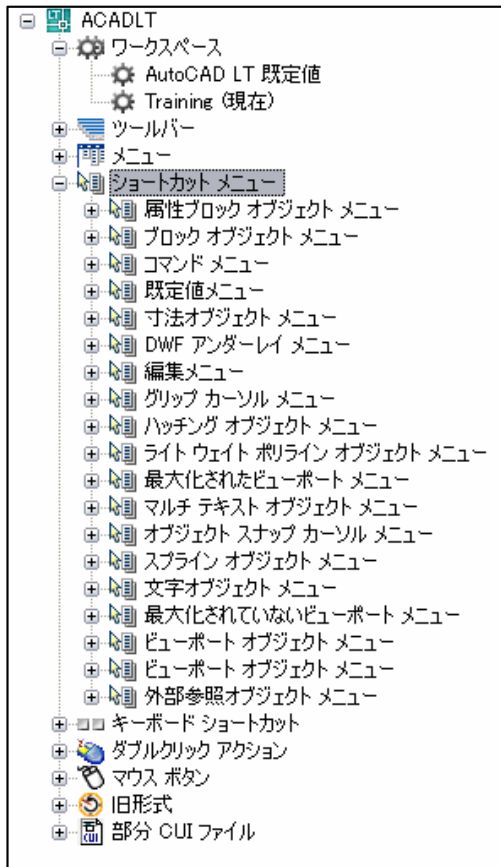
面取り : ***^C^C_CHAMFER**

マルチテキスト : **^C^C_MTEXT;#W;0;**



2. 右クリックショートカットの編集

様々な環境下での右クリックショートカットを編集することで作業効率をUP！



コマンド : CUI ◀

「ショートカット メニュー - 」から
「規定値メニュー」
「編集メニュー」をカスタマイズ

「コマンド一覧」から必要なコマンド
をドラッグ！

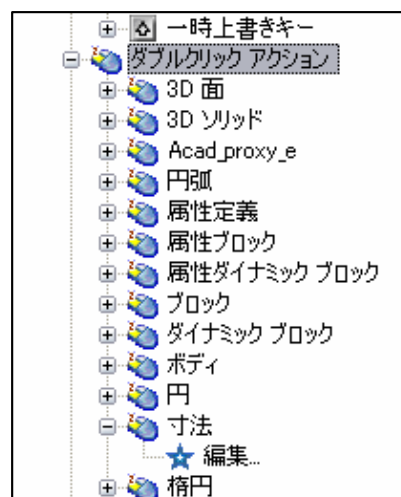
要らないものは右クリックで削除



右のメニューを参考に編集！

ダブルクリック アクションは
(ダブルクリック時のコマンド)
「寸法」に文字編集をドラッグ

「OK」



ツールパレット カスタマイズ

Ver2004から登場したツールパレット (Ctrl + 3)

ハッチングとブロック図形のための登録だったが
Ver2005からコマンドも登録でき使いやすくなった。

アイコンのプロパティは
(アイコンで右クリック - プロパティ)
レイヤー指定などができ
レイヤー変更しなくてもカッテに変わる。
(図面上の図形をパレットへドラッグすれば登録できる)

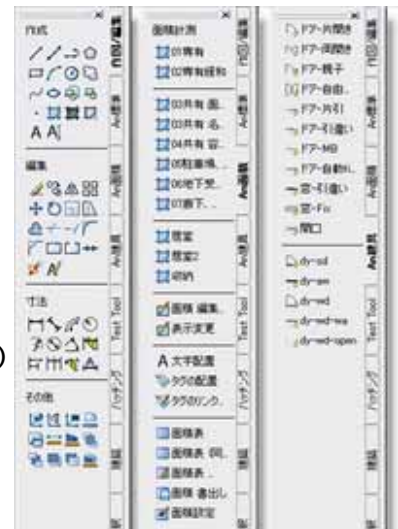
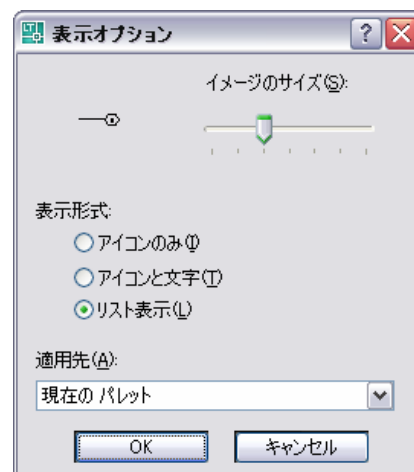
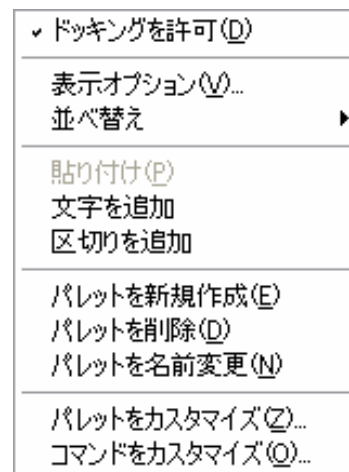
ブロック図形では図面尺度に応じて
配置する時の尺度が変更できる
(尺度は寸法尺度と印刷尺度から参照。)

ツールバーからの移行のしかた
パレット上で右クリック - 「カスタマイズ」を選択

カスタマイズ画面を表示したままの状態
各ツールバーからボタンをドラッグすれば作成完了!
(フライアウトの表示を変更するには
作成後 プロパティ から「フライアウトを使用」を「いいえ」に変更)

同じアイコンを複数作成
(レイヤー変更のみなど) したい時は
パレットのアイコンを右クリックでコピー - ペーストすればOK
(「Ctrl」を押したままドラッグも可)

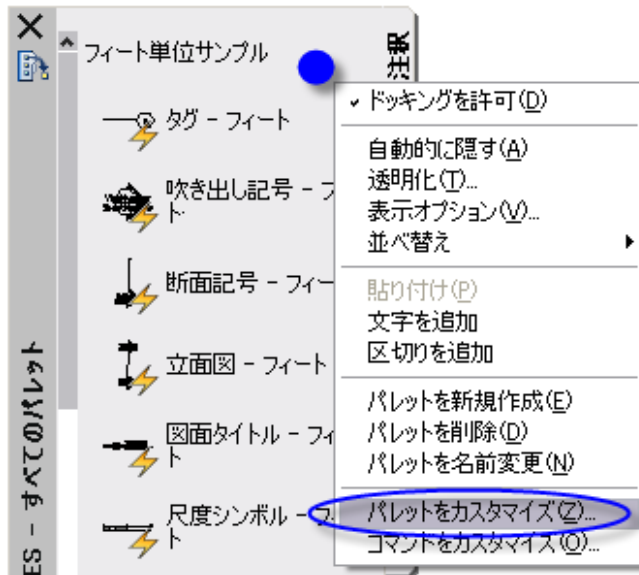
Ver2007ではパレットからCUIへドラッグできる。



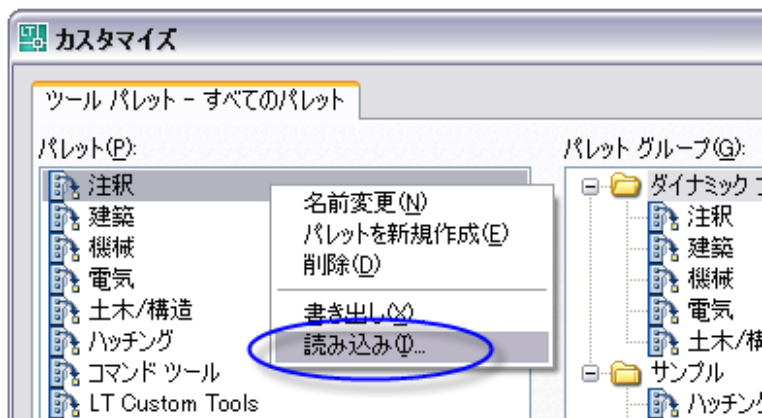
ツールパレット 読み込みと書出し

2Dツールをまとめたサンプルです。

- 1、「ツール」 - 「パレット」 - 「ツールパレット」
表示されたツールパレット上で右クリック
「パレットをカスタマイズ」



- 2、「パレット」内で右クリック「読み込み」
「2D Work.xtp」ファイルを選択し開く



「閉じる」で完成！

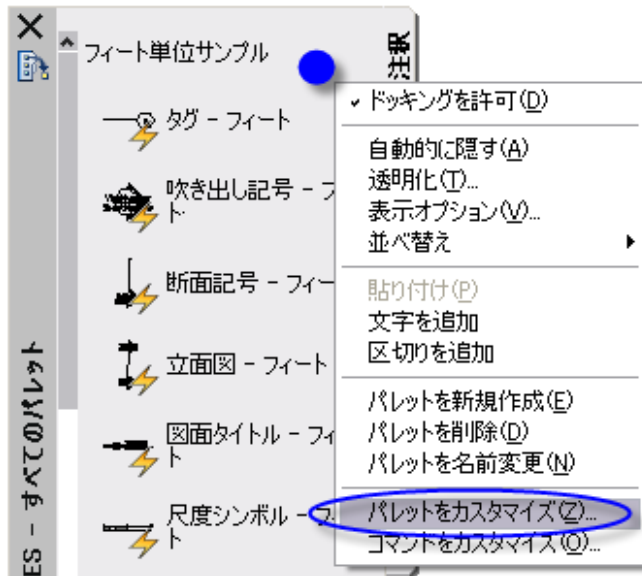
XTPファイルの書出し

作成したパレットを他のPCに移植、ユーザーに配布する。
.XTPファイルとパレットで利用しているイメージデータが
XTPファイルと同名のフォルダで書出される。

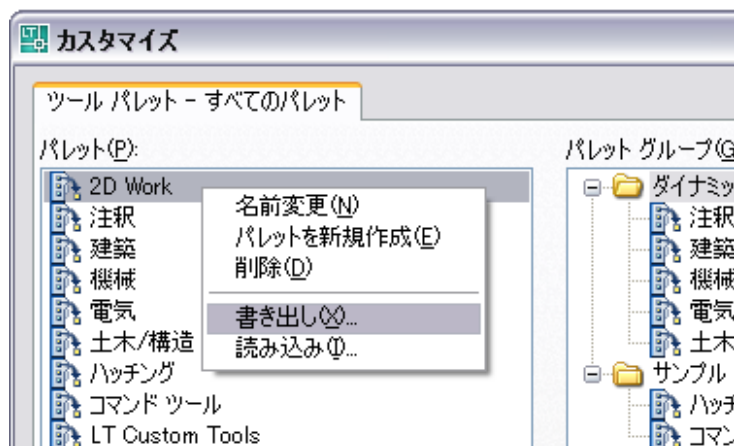
これを配布し、読み込み作業を行う。
読込んだ後はこのファイルとフォルダは必要なくなり
パレットの内容はユーザーのパレットパス内に保存される。

作業手順

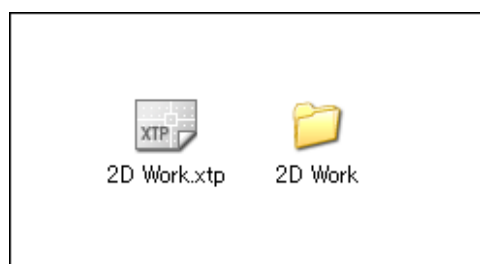
- 1、「ツール」 - 「パレット」 - 「ツールパレット」
表示されたツールパレット上で右クリック「パレットをカスタマイズ」



- 2、書出すパレットを選択し右クリック「書き出し」



- 3、書出すフォルダを選択し「保存」



メニュー マクロ構文

文字	説明
;	キャリッジ リターンを発行します。
^M	キャリッジ リターンを発行します。
^I	TAB を発行します。
[Spacerbar]	[Spacerbar]を押すのと等価な空白スペースをメニュー項目に入力します。
¥	ユーザ入力が可能ないように一時停止します。
_	AutoCAD LT コマンドとキーワードを、本来のコマンドとキーワードに変換します。
+	メニュー マクロを次の行へ継続させます(最後の文字の場合)。
=*	現在のイメージ タイル、カーソル、プルダウン メニューを表示します。
*	後に続くマクロを繰り返します。
\$	メニュー セクションをロードしたり、条件付き DIESEL マクロ式(\$M=)を導入するための特殊文字コードを示します。
^B	スナップ モードのオン/オフを切り替えます([Ctrl]+[B])。
^C	現在のコマンドをキャンセルします。
^D	座標表示のオン/オフを切り替えます([Ctrl]+[D])。
^E	次の等角面を設定します([Ctrl]+[E])。
^G	グリッド モードのオン/オフを切り替えます([Ctrl]+[G])。
^H	バックスペース([BackSpace])を発行します。
^O	直交モードのオン/オフを切り替えるか([Ctrl]+[O])、または既存の図面を開きます。
^P	現在の図面を印刷します。
^Q	すべてのプロンプト、ステータスの一覧をエコー表示してプリンタに入力します([Ctrl]+[Q])。
^T	タブレットのオン/オフを切り替えます([Ctrl]+[T])。
^V	別のビューポートを現在のビューポートにするか([Ctrl]+[V])、またはクリップボードからデータを貼り付けます。
^Z	null 文字を示します。メニュー項目の終わりに対する[Spacerbar]の自動追加を抑止します。

メニュー マクロ & DIESEL--文字列式言語 [LT version]

§ マクロの中でシステム変数を得る

$\$M=\$(GETVAR,システム変数)$

『SETENV & GETENV』

SETENV;変数名;¥ ¥の時に値を入力します

この値を得る時は $\$M=\$(GETENV,変数名)$

関数一覧 詳細はHelp参照

+ (加算)

- (減算)

* (乗算)

/ (除算)

= (に等しい)

< (より小さい)

> (より大きい)

!= (に等しくない)

<= (より小さいか等しい)

>= (より大きい等しい)

and

angtos

edtime

eq

eval

fix

getenv

getvar

if

index

nth

or

rtos

strlen

substr

upper

xor

線種に文字を含める

文字記述子形式

["文字",文字スタイル名,尺度,回転, X オフセット, Y オフセット]

文字

線種で使用する文字です。

文字スタイル名

使用する文字スタイルの名前

文字スタイルを指定しなかった場合は、現在定義されているスタイルが使用されます。

尺度

文字スタイルに使用する、線種尺度との相対尺度です。文字スタイルの高さは、この尺度の倍数になります。文字スタイルの高さが 0 の場合は、この値が高さになります。

回転

R= は、文字の回転角度。

A= は、原点に対する文字の絶対的な回転角度を指定します。

X オフセット

線種の X 軸に沿った文字の移動距離を指定します。

Y オフセット

線種の Y 軸に沿った文字の移動距離を指定します。



上の図の線種を作成

手順

1、Windows「メモ帳」を起動します。

AutoCADのSupportフォルダ内の「acadiso.lin」を開き最終行へ移動します。

2、「*」を先頭に付け「パターン名」,「説明」を記入し↵

3、「A ,」を先頭に付け「 , 」区切りで下記を入力し↵

*Gyosei-line,行政界

```
A,40,["<","STANDARD,S=2,Y=-1],-2,1,-1,[">","STANDARD,S=2,Y=-1],-1
```

「ファイル」 - 「上書き保存」として保存します。

ハッチングのカスタマイズ

オリジナルのハッチングパターンを作成するには、Windowsのメモ帳などのテキストエディタを利用します。作成するパターン名とファイル名(*.PAT)を同じ名前にする必要があります。ファイルを保存する場所にはパスを通しておく必要があります。

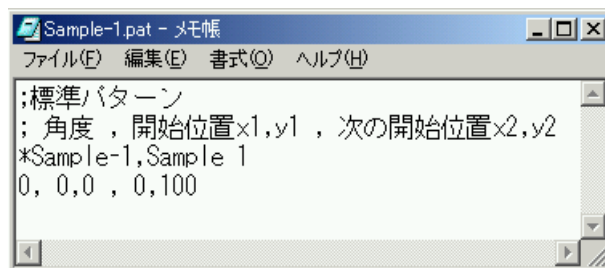
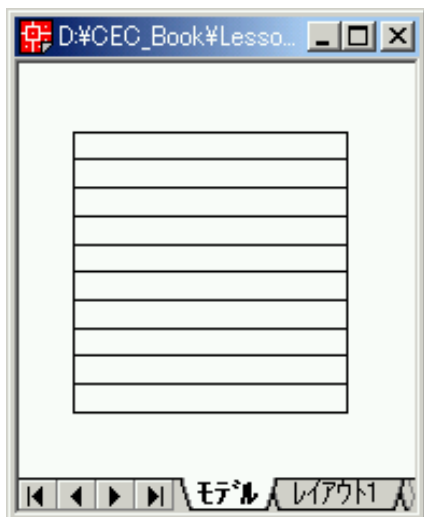
「ツール」-「オプション」「ファイル」タブ

「サポートファイルの検索パス」「追加」「参照」フォルダを指定します。

右の図のような間隔100のハッチングを作成

手順

- 1、Windows「メモ帳」を起動します。
- 2、「*」を先頭に付け「パターン名」、「説明」を記入し↵
- 3、角度、開始位置 x,y、次の開始位置 x,y を「,」区切りで入力
0, 0,0, 0,100 ↵
- 4、「ファイル」-「名前を付けて保存」
ファイルの種類を「すべてのファイル」とし
保存先のフォルダに「Sample-1.pat」として保存します。



One point!

関連システム変数

HPANG : ハッチングの角度

HPSCALE : ハッチングのスケール

作成するにはDesignCenterからファイルを選択しパターンをドラッグすることで作成できます。

角度や間隔、また行数を増やすことで色々なパターンが作成できます。

例

<pre>*conk,RC1 45, 0,0, 0,2000 45, 70,0, 0,2000 45, 140,0, 0,2000</pre>	<pre>*conk2,RC2 45, 0,0, 0,1800 45, 75,0, 0,1800 45, 150,0, 0,1800</pre>
---	--

この他、破線パターンの作成、開始位置のオフセットなどができます。

下記のパターンやacadiso.patなどを参考にオリジナルのハッチングを作成してみましょう

<pre>;破線パターン ;角度, 開始位置, 次の開始位置, 表示長さ,非表示長さ *Sample-0,Sample 0 0, 0,0 , 0,20 , 25,-10 ;指定した角度を0度(ベクトル)と考え ;次の開始位置を決める(負の値でも可) *Sample-2,Sample 2 90, 0,0, 0,125, 80,-80 ;次の開始位置のオフセット *Sample-3,Sample 3 90, 0,0, 80,125, 80,-80 *Tile 250x80,Tile 250x80 0, 0, 0, 0,80 90, 0,0, 80,125, 80,-80</pre>
